

## 令和6年2月8日 教育委員会会議録

- 1 日 時 令和6年2月8日（木） 午後3時～午後4時1分
- 2 場 所 10階 委員会開催室
- 3 出席委員 金沢智也教育長、白鳥樹一郎委員、中村篤委員、細谷真紀子委員、伊藤洋子委員
- 4 出席者 高橋一実教育部長、大沼裕子事務局次長、西村尚人教育企画課長、  
横山いずみ教育総務課長、細谷直樹次長（兼）学校教育課長、  
佐藤哲也社会教育青少年課長、小関仁美少年自然の家所長、阿部宏図書館長、  
斎藤浩之学校給食センター所長兼栄養管理室長、  
志済直史商業高等学校事務長、事務局（教育企画課及び教育総務課職員）

### 会議次第

- 1 開 会
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 議 案  
議案第3号 市議会の議決を経るべき議案に係る市長への意見の申出について  
（令和5年度教育費3月補正予算）  
議案第4号 令和6年度用「学校教育の重点目標 指導の指針」策定方針について  
議案第5号 第2次山形市特別支援教育推進計画の策定について
- 4 日 程 等
- 5 そ の 他
- 6 閉 会

## 会議録

### 1 開 会 教育長

### 2 会議録署名委員の指名

教育長…本日の会議録の署名委員は、中村委員にお願いしたい。

### 3 議 案

教育長…本日の議事に入る前に「会議を公開しないこと」について、お諮りする。

本日の議案第3号「市議会の議決を経るべき議案に係る市長への意見の申出について（令和5年度教育費3月補正予算）」は、山形市教育委員会会議規則第7条第1項第5号（市長又は議会に対する意見の申出及び市長その他の関係機関との協議等を必要とする事項）に該当する案件であることから、「会議を公開しない」こととして審議してよろしいか。

（全委員、異議なし。）

教育長…それでは、議案第3号については「会議を公開しない」こととして審議し、その会議録等についても非公開とする。

<以下、非公開>

<非公開解除 以下公開>

教育長…次に、議案第4号「令和6年度用「学校教育の重点目標 指導の指針」策定方針について」説明をお願いします。

<学校教育課長より説明>

白鳥委員…「主体的・対話的で深い学び」については、文部科学省が発表したものに文言を合わせたものと考えてよいか。

学校教育課長…委員ご指摘のとおりである。

白鳥委員…「子ども自身が学びを調整できるようにする」という言葉が出てくるが、どのような意味で書いたのか伺いたい。

学校教育課長…自分の中で自分が学んだことや友達の学びを昇華し、自分の学びを深めるという意味で書いたが、文言を再度検討する。

白鳥委員…「一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実」という文言がなくなっているが、十分に浸透したものだと考えて削除したのか。

学校教育課長…はじめのタイトルではなくなっているが、中段に内容を記載している。「一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実」、「相談・支援しやすい体制づくり」「特別支援教育力の向上と切れ目ない支援の充実」と3つ並べることで、それぞれの重要性を訴えているところである。

中村委員…主体的・協働的・創造的が、主体的・対話的で深い学びの実現に向けたと変更になっているが、一部「協働的な学び」といった文言が残っている。統一してはどうか。また、「自ら学び続ける」という表現は「主体的」にしてはどうか。

学校教育課長…「協働的な学び」には、「対話的」とは違う意味があり、この違いについては委員の皆様にもご理解いただけるものだと考えている。「自ら学び続ける」という表現は再度検討する。

伊藤委員…適切な就学先を判断するための教育支援相談の手順の中に12月下旬という期日が出てくるが、何が12月下旬なのか。

学校教育課長…市の教育支援相談員による教育相談が12月下旬に行われる。この相談までに、校内での相談が続いており、最後の教育支援委員会に書類を提出するための面談となる。

伊藤委員…病院側の都合を考えると、12月下旬から早めることが望ましいと考えるがいかかか。

学校教育課長…早めることはできるが、早く行える児童については早めに行っているものだと考えている。在籍移動に係る話になるので、慎重に対応せざるを得ない。また、相談等にも時間がかかるため、後ろにずれてしまう場合もある。

伊藤委員…今、主治医の先生がいるところで児童・思春期を診られる病院が少なくなっている。そのため、検査までの待ち時間が長くなるケースも散見される。丁寧にとというのは理解できるが、スタートを早めることで丁寧に相談を行って欲しい。

教育長…一般的な学校の基準という形で、適切な就学先を判断するための教育支援相談の手順を示しているが、様々なイレギュラーがあり、なかなか予定通りには進まない部分も

ある。

細谷委員…災害発生時の対応について、校務支援システムと結びついて、安否確認等の文言が追加できるのではないか。

学校教育課長…校務支援システムでどのような安否確認ができるかについては、まだ吟味をしていない。できるかどうかも含め確認したいと思う。各学校で防災マニュアルを整備している。そちらも確認しながら、非常事態の安否確認を検討していきたい。

伊藤委員…「SOSの出し方教室」について、児童生徒に行うのであれば、保護者に受け止め方の講義を行うのもセットだと捉えてよいか。

学校教育課長…SOSの受け止め方教室については、教職員研修の中で取り組んでいる。保護者については学校毎の対応となり、記載の都合上載っていないが、学校によっては行っているところもある。まずは、教員のSOSの受け止め方教室を行い、その後保護者へと広げていければと考えている。

中村委員…「研修および実践を通して、対応の中核となる教員の育成を目指していく。」という文言があるが、一般的な人間の心理として7～8割の人間は、自分は関係ないと考えてしまうのではないか。組織的に行っていくということは、全体をレベルアップするという事だと思ふ。文言について検討が必要ではないか。

学校教育課長…こちらについても、もう一度教員の受け止め方を考え再度検討する。

伊藤委員…児童生徒の問題の未然防止と早期発見、即時対応の中で、ICT機器について触れられていないが、まだ記載が難しい段階なのか。

学校教育課長…「ツール等」という表現の中に、ICT機器を含んでいる。施策として新たにICT機器を導入するため、表現については再度検討する。

伊藤委員…教育相談やいじめ対策が書いてある部分について、よくできていると思う。これが学校で組織の中に組み込まれていくことを、どのように評価していくのか。

学校教育課長…各学校の組織体制はできており、組織体制については提出いただくため把握も行う。しかし、機能しているかどうかについては、全ての学校に確認するのは難しい。学校教育課が対応している際、機能していない学校もあるようだという事は感じている。そのため、組織を機能させるための、中核となる教員の育成に取り組んでいく計画を立てている。

細谷委員…教育相談の充実の他、適応教室「風」の活用や校内の居場所づくりの推進など、不登校の未然防止や状況改善に向けて、児童生徒への支援を行うとあるが、ここにフリースクールという文言が入っていない理由は何か。

学校教育課…フリースクールと協力していかなければならないことは認識している。しかし、現段階では、まずは学校に居場所をつくることを最優先していきたいと考えている。これは、保護者がフリースクールに行く決断を反対するものではないし、児童生徒にとってフリースクールのような場所があるのはとても良いことだと感じる。反面、学校としてフリースクールに行くことを薦めることで、自分の手を離れたと認識する教員が出るのではないかということも危惧している。そのため、不登校児童生徒の対応は、まずは学校でと学校に伝えるためにも今回は記載していない。次回以降は記載について再度検討する。

伊藤委員…適応教室「風」について、2年ほど前、自主学習ができない児童生徒についてはお断りされるケースがあった。現在はどうなっているのか。

学校教育課長…適応教室「風」では、個別指導をしなければならない児童生徒については、困るということをお伝えしている。指導員も5名と限られているため、何十人もの児童生徒が来る中、一人の児童生徒に対応し続けるのは難しい。

伊藤委員…適応教室「風」では、受け入れられない児童生徒についてはどのような対応ができると山形市教育委員会では考えているのか。

学校教育課長…校内居場所づくりについても研究し、学校数を増やしていきたいとも考えている。また、適応教室「風」のような場所を増やせないかとも考えているが、山形市教育委員会としてどこまで対応すると良いのかということも含め、過渡期となっていると思う。フリースクールとの連携については、初期よりも取れているし、紹介することはできると考えている。今後も大きな課題として議論していきたい。

伊藤委員…校内教育センターについては、今回記載はあるか。

学校教育課長…記載があるかどうか確認を行う。

伊藤委員…「今、山形市では、別室があるところがほとんどだ」というお話を以前伺ったが、名前が変わっただけで、同じような機能のみとなると良くないのではないかと思う。別室の現状を見ると、来室する児童生徒のニーズに答えていないのではないか。新しいものを導入するのであれば、今までと同じではなく変わった点を示してほしい。また、お金等の計画についても伺いたい。

学校教育課長…居場所づくりの事業の特徴は、教室復帰を前提とした別室ではない校内フリースクールのような居場所を作ることである。しかし、部屋はあっても環境整備をするお金が必要となってくる。今、お金の確保に向けて進めている。基本的に人とお金があれば文部科学省が推奨するような事業ができる。しかし、お金は地方の財政から支出する必要がある。決まった予算のなかで様々な事業を展開していくことになるので、この事業をすぐに予算化できるかというところではない場合も多い。理想的には分かるが、できるところから一步一步進めていきたい。

伊藤委員…来年度はどのように変わるのか。

学校教育課長…来年度は指定校を増やすということがあげられる。まずは全ての学校に居場所づくりを行いたいと考えている。

教育長…その他、意見や質問はあるか。

<各委員より「なし」の声>

教育長…それでは、議案第4号について、原案のとおり検討も含め、承認してよろしいか。

<各委員より「はい」の声>

<原案のとおり検討も含め承認>

教育長…次に、議案第5号「第2次山形市特別支援教育推進計画の策定について」説明をお願いします。

<学校教育課長より説明>

伊藤委員…保護者等へアンケートを行っており、そこを成果として見るというところが評価できる。ありがとうございました。

細谷委員…計画を推進するための体制について関係各課という表現があるが、具体的な課名を入れた方がいいのではないか。

学校教育課長…関係各課とさせていただいたのは、関係課の係長を集めて会議をした際、必要な係や課が増えていった経緯や、計画を進めていく中で、課名が増えていくことが考えられるため、今回は関係各課という表現でいきたい。この計画を推し進める中で、課名についてはいずれ示すことができればと考えている。

教育長…その他、意見や質問はあるか。

<各委員より「なし」の声>

教育長…それでは、議案第5号について、原案のとおり承認してよろしいか。

<各委員より「はい」の声>

<原案のとおり承認>

4 日程等

5 その他

教育長…委員よりその他意見や質問等はないか。

<各委員より「なし」の声>

教育長…事務局よりその他報告等はないか。

<事務局より「なし」の声>

6 閉会 教育長